

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

51

発行日：平成29年 9月15日(金)
(2017年)

地域企業紹介 51

株式会社栄和産業

「ものづくりは 誠心 誠意 誠実」

建設機械部品・自動車部品の金属プレス製品製造加工を主業とする株式会社栄和産業の伊藤正貴社長を綾瀬市吉岡東の本社工場に訪ねました。

同社は昭和49年11月に伊藤社長の実父である伊藤正士氏(平成29年3月に会長職をご勇退)が横浜市戸塚区で創業。昭和56年10月に本社を綾瀬市深谷に移し、現在では綾瀬市吉岡東の本社工場をはじめ市内に7工場と静岡県内に2工場を保有している。近年の受注構成は建設機械関連部品70%、自動車関連部品30%であり、ショベルカーのエンジンフードや大型バスのパネルフロントーフなどを中心に二千種余りのパーツを手掛けるなど取扱製品は幅広い。

一般的にプレス加工には「張出し成形」や「伸びフランジ成形」・「曲げ成形」など様々な工法があるが、プレス加工の中でもっとも難しいとされるのが「絞り加工」である。一枚の金属の薄板から円筒・角筒・円すいなどさまざまな形状の底付容器を作る加工法であるが、金型・機械・加工条件と加工技術などのバランスがうまくみ合ってこそ、しわやひずみ・割れのない絞り加工が出来上がる。また、その深さが深くなればなるほど製造難易度は増すことになるが、熟練した社員のハンドワーク(板金技術)によって、難しい深絞り加工にも柔軟に対応できる。こうした高度な技術力と納期厳守の徹底が取引先からの信頼と様々な関連部品の受注に繋がっていると伊藤社長は語る。

小学生時代から自社工場に入社することが多かった伊藤社長が同社に入社した時代は折しもバブル経済の真ただ中、猫の手も借りたいくらい忙しい時期であった。入社当時は朝から翌朝近くまで働くことが多く、家には風呂に入りて帰るといった日々が続いた。一時は休みなく働くことに高揚感さえ感じる“ランナーズハイ”の感覚も味わったそうだ。

その後、日本経済は一変して長期的な景気低迷時代を迎える。さらに世界を揺るがしたリーマンショックは同社の存亡の危機となるような状況だったが、何とか経営危機を乗り越えることができた。その時の厳しい状況は今でも忘れられないと伊藤社長は当時を振り返る。

(2面につづく)

株式会社栄和産業

代表取締役 伊藤 正貴 (いとう まさたか)

所在地：綾瀬市吉岡東4-15-5

従業員数：133名

売上高：9億円 (2017年 4月期)

事業内容：自動車新車部品試作鋳金及び建設機器部品試作鋳金、自動車部品加工、建設機器部品加工、各種溶接、各種ベンダー曲げ、三次元レーザー加工、二次元レーザー加工、各種型製作

URL: <http://www.eiwa-sangyou.co.jp/>

まさにバブル期と景気低迷期を経験してきた伊藤社長が先代から代表取締役を引き継いだのは平成26年4月。社員とのコミュニケーションを非常に大事にし、慰安旅行をはじめボーリング大会や新入社員歓迎BBQなどの社内イベントを積極的に実施している。また、伊藤社長が監督を務める社内野球部は綾瀬市主催の野球大会(B)で2連覇するなどの実力派チームである。

そんな伊藤社長は、障害者が「国から支援を受ける立場から納税者へ」をスローガンに障害者雇用への取り組みも行っている。特に障害者の職場実習に力を入れ、現在、県内6校の養護学校から実習生を受け入れ、製造部門のみならず様々な部署に配属している。

「障害者雇用については多くの様々な課題があることも事実だが、前向きに取り組むことで解決できることも多い。当初は障害者の法定雇用率をクリアすればいいと思っていたが、一緒に働いてみると、みんな素直な子ばかりで一生懸命に仕事をしている。実習生が当社で働くことで喜びや幸せを感じてくれることが当社にとっても大きな喜びとなっている」と伊藤社長は話す。

同社では、こうした実習生の受け入れから本採用に至るケースも増えつつあり、現在7名の障害者の方々と一緒に働いている。

しかし、こうした取り組みを行うには先ず本業がしっかりしていなければいけない。ジャンプするのではなく、しっかりと地に根を張って「背伸びするくらいの踏ん張り」でチャレンジしていると謙虚ながらも意欲的だ。今後も綾瀬市行政との連携をさらに強め、「共に生きる」ために、一社でも多くの企業が参画し、一人でも多くの障害者雇用の促進に繋がればと他の企業にも職場実習生受け入れの呼びかけをしている。

海外企業の技術力も着実に向上している中、2020年開催予定のオリパラ後の景気の落ち込みを想定し、難しくて面倒なものであっても簡単につくりあげることが出来る、そんな社内体制を構築することが今後の課題であると伊藤社長は気を引き締める。

充実した工場や設備と長年にわたり培われた高い技術力に加え、多彩な人材がいる。そして何よりも社員の“個性”を大切にするという企業風土が構築されている栄和産業は、まさに「誠心・誠意・誠実」で社会に貢献している創造性豊かな企業である。

入居企業紹介

55

「縁で紡いだ光が、暮らしを照らす」

株式会社オプトデザイン さがみはらオフィス

様々なエレクトロニクス商品の設計・製造・販売を手掛ける株式会社オプトデザイン代表取締役の佐藤栄一(さとう えいいち)さんにお話を伺いました。

大学で原子物理学を学んだ佐藤社長は、大学卒業後、大手光学機器メーカーに入社し、光ファイバーの研究開発などに携わってきました。1991年3月に八王子市南大沢(現:本社)で有限会社オプトデザイン研究所を設立し、2000年6月に現在の社名となり、2001年10月にSICへ入居されました。

現在、大手光学機器メーカーのOBや若手スタッフらとともに、日々熱く議論を交わしながら、次なる光学技術を見据えた事業推進に取り組んでいます。

オプトデザイン社の事業は、特許取得技術を活用したLED直下型フラット照明を展開するユニブライツ事業と光学関連のソフトウェアの代理店販売や光学設計・コンサルティング、各種機器・部品の販売などを行うオプト事業の二本柱で展開されています。

佐藤社長にとっては創業から現在に至るまで、まさに山あり谷ありと苦い経験をしながら、それを力に変え、特許取得技術で

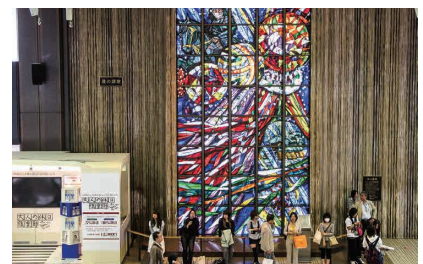


もある「フラッタ」という点光源を面光源に変換する革新的な技術の開発に成功しました。オプトデザイン社の技術は、大手電機メーカーのテレビや駅構内の案内表示板などでも採用され、私たちの暮らしにとっても身近なところで活用されています。

「光学業界は技術サイクルがとても早く、常に変化が絶えない世界です。これからの目標は、既存の事業を大きくしていくとともに、先を見据えた研究開発に取り組み、次の技術の波に乗れるような光学技術を生み出すことです。」

また、「人との縁に恵まれてきた」と謙虚に語る佐藤社長ですが、「人のことを悪く言わず、いいところを見るようにしている」と

いうお人柄が、さまざまなご縁を引き寄せてきたのではないのでしょうか。縁で紡いだ光が、私たちの暮らしを明るく照らしてくれています。



仙台駅西口吹き抜けコンコースのステンドグラス

株式会社オプトデザイン
SIC-1 103 号室
TEL: 042-770-9779
URL: <http://www.opto-design.com/>



What is “Incubation”?

前号では、ビジネス・インキュベーターとしてのSICとインキュベーション・マネージャーの役割についてご紹介しました。今回からはSICの人材育成の研修や連携プロジェクトについて、担当しているインキュベーション・マネージャーと共にご紹介します。

SIC 経営塾

SICが2000年にオープンし、高い成長意欲をもつ起業家に向けて株式公開塾や経営者育成塾を企画・運営しながら、2002年に始まったのがSIC経営塾(以下、経営塾)です。この経営塾において先端的な企業のケーススタディを通じて経営の理論と実践を学ぶことで「真の経営力」を身に着けた“ニュービジネスリーダー”を輩出するため、(株)浜銀総合研究所の経営コンサルタントとして活躍されていた寺本明輝氏(現同社常務取締役)をコーディネーターに迎え、様々な業種・業態の経営者・経営幹部の方々に約9か月間の研修を受講していただきました。

翌年からも経営塾は継続し、大手監査法人や金融機関からのご協力を得ながら、今ではSICの看板事業となっています。特に、最終回の発表会は好評で、受講生が事業構想を自らの言葉で伝え、経営

の専門家や学識経験者の鋭い質問や励ましの言葉を受けます。発表を終えた時に見せる受講生全員の「やり遂げた!」というすがすがしい表情は、自社の経営に正面から向き合い、考えて考え抜いたことの証なのです。

また、経営塾では、共に切磋琢磨して成長した仲間のネットワークが、その後の財産になったとの声を頂きます。今年度で16期生を迎え入れた経営塾は、これまで140名の経営者及び経営幹部の方が受講、修了されました。そして、修了生からの発案で、各期の修了生が集う「独創会」を平成26年から開催しています。経営塾を通して今後も強い企業、挑戦し続ける企業と共にSIC自身も成長を続けていきます。



担当IMから一言

塾長はSICの橋元社長、コーディネーターには相模原市産業振興財団の中村事務局長が参画しています。私自身は昨年度から担当していますが、毎回の課題に苦勞され、気づきと戸惑いを繰り返される受講生の方々に何かお力になればと思いながら取り組んでいます。この経営塾の他、入居企業様への個社支援やDesk10なども担当しています。そこでもよく「事業計画を作りましょう」とお話しさせていただきますが、果たしてこの事業計画の作成が事業者の皆さんにとって本当に役立つのだろうかといった迷いが生じることもあります。それでも、先日、経営塾の修了生から「作った経営構想(事業計画)のおかげで、堂々と自分の想いを語ることができた」とか、「これからも目標達成のために頑張っていく」といった声を聞き、その大切さを教えていただきました。

これからもIMとして多くの企業、プロジェクトと関わっていくことになりますが、基本を大切に、多くの気づきを与えてもらえるこの環境に感謝しながら日々の業務を全うしていきたいと思います。

事業創造部 片山 寛之

関西の大学を卒業後、医用機器関連商社に営業担当として入社。その後佐賀県にある中小企業(実家の稼業、当時の従業員数約40名)にて経営管理等に従事した後、法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科に進み、修了後、SICに入社。2008年に中小企業診断士登録。



日本料理 和食処 しまざき

国道16号の橋本駅南交差点から八王子方面高架下踏切手前にある料亭です。ランチでアナゴとエビの天井を注文。揚げたてのサクッとした穴子とエビ、甘さ十二分の野菜てんぷら、そして、ふっくらとしたご飯、話も忘れ無我夢中で食べてしまう美味しさです。創業40年、昭和の風情ある居心地の良い個室が旬の食材を活かした料理を引き立てます。焼もの、刺身も人気とのこと。次回は大人数で季節のコース料理を楽しみたいと思います。(コース料理は4000円〜、大小個室あり4人から最大40人まで)

相模原市緑区橋本8-1-10
TEL:042-771-7471
<http://www.washokushimazaki.jp/>

営業時間 11:30~14:00(L.O.13:30)
17:00~22:00(L.O.20:45)
定休日 日曜日



穴子とえび天どん 1,200円



4人部屋で



The HINT

入居企業支援 SICミニセミナー(The HINT)

SICでは、経営のヒントとなる身近なテーマでミニセミナーを開催しています。The HINTは、企業の専門技術以外の経営分野において、普段企業の皆様と接する機会が多いインキュベーションマネージャーが経営者の皆様の手助けとなるようにと企画しているセミナーです。

入居企業の方々が忙しい合間をぬってご参加いただけるよう、短時間凝縮で開催しています。入居企業様が優先となりますが、地域の企業様もご参加頂ける無料セミナーです。

随時SICホームページで開催のご案内をしておりますので、どうぞ、ご利用ください。



これまでに開催したテーマ

- 実践!成果につながる“ビジネス・コミュニケーション”
- 補助金等支援制度の探し方・活かし方
- 事例で学ぶ!!失敗しない“契約”の結び方
- 雇用を始める前のチェックポイント
- 他社との“連携”で市場を拓け!!
- 税理士との付き合い方が経営を変える!
- 企業間取引での契約書のチェックポイント!
- 事例から学ぶ!心に訴えるデザイン活用法
- 資金繰り表の作成と活用のための基礎知識

など、これまでに35回の開催を数えます。

これからも、企業の皆さまの日頃の経営に活かして頂けるセミナーを企画してまいります。

【お問い合わせ先】

さがみはら産業創造センター(SIC)

電話042-770-9119 担当:樽川・室伏

2017.9 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

9月19日(火)	SICミニセミナー The HINT No.36
9月21日(木)	入居者交流会(秋の Pasta 祭り)
9月27日(木)	ROBOT SEMINARロボット操作教育(実習コース)9月期
10月30日(月)	Sler育成プログラム フォーラム(仮)
11月 8日(水)	第39回南西フォーラム



入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (平成29年9月15日 現在)

※お気軽にお問い合わせください。

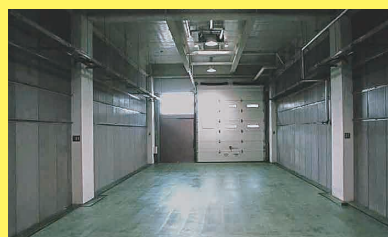
部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)	
SIC-1	○スモールオフィスA (23.6㎡)	1	78,700円
	○スモールオフィスB (17.3㎡)	4	64,200円
	○セミラボB (31.5㎡)	1	98,400円
	△ラボ (94.5㎡)	1	246,600円
※平成30年1月以降入居可			
SIC-2	空室はありません	-	-
SIC-3	空室はありません	-	-



スモールオフィスB



セミラボB



ラボ



会議室
(入居企業様に
ご利用いただけます。)

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<http://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

SICリーダー育成「塾シリーズ」の三塾(経営塾、職場リーダー養成塾、カイゼン・スクール)がスタートしました。3ヶ月〜8ヶ月に及ぶ長丁場です。担当スタッフは入念な準備で毎回皆様をお迎えしています。今号から、そんなSICの事業担当者(IM)をご紹介しますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>